



hida
広報
ひだ



第1号
肥田町
郷づくり委員会
H8. 6. 1 発行

「郷づくりについて」

肥田町郷づくり委員会

委員長 藤野慶三郎

戦後五十年又肥田が彦根市に編入されて三十年を過ぎ、肥田町に目まぐるしく変貌する社会情勢の下で住宅団地の造成、スーパーの進出、短期大学の誘致、又近隣には高層マンションの建設等都市化が進み更には高齢化が進んで私達の生活、物事の考え方や環境の変化によって地域の連帯意識が失われつつある今日、前年度町史の発刊によって、我等のふるさと肥田町の永い歴史と先人の逞しい努力の業績によって、築かれて来た歩みを知り大きな誇りと自信を抱く事が出来ました。

その町史編集の中で二十一世紀に向かって「明日の肥田を目指して」郷づくりが話題にのぼり、その巻末に指針が示されました。この度この趣旨に基づいた肥田町郷づくり委員会が設立され、初代の委員長に推薦して頂きましたこと、身に余る光栄と感謝致しますと共に不安と、責任の重さを痛感しております。

この様な大事業は一朝一夕で完成する事は難しく、出来るものから実施して行きたいと考えております。幸いそれぞれの事業に堪能な実績のある諸先輩各氏に委員（部長）としてお願いに快諾を得て

広報ふれあい事業部長 青木 一雄
環境事業部長 山岸長兵衛

文化財保存世代交流事業部長

高橋 俊英

教養文化事業部長

成宮 伊蔵

伝承事業部長

元持 正三

土地開発計画事業部長

伊関 貞夫

自治会長はじめ各団体の長を相談役としての御協力をお願いし発足致しました、皆様のご智を集結して、豊かな環境と活力ある肥田の実現を旗印に、自治会と一体となって誠心誠意頑張らせて頂く所存でございます。町内各位の暖かい御理解と御協力をお願いして郷づくり事業発足の御挨拶とさせていただきます。

尚本広報は本事業の一環として第一号を発行することになり、彦根市長中島 一氏より、御投稿とはげましの言葉を賜り有難く御礼を申し上げ、御期待に副える様町内一丸となつてこの事業の推進を計り、これから格別の御支援、御指導をお願いしたいと思っております。

「郷づくりは人創りです」

—自然との共生の実を—

ご期待いたします—
彦根市長 中島 一

肥田町の皆さん、お元気のことと存じます。郷づくり委員会が発行されます広報「ひだ」に投稿の機会を与えていただきありがとうございます。

さて、五月がゆき、六月がきます。その五月を英語では「月々の女王」と呼んでいます。

「美しいもののなかでも美しいのは五月」ということわざがあり、また「五月の花のようには新鮮な」という成句もあります。

そのさわやかな、五月に続いて六月です。

「月々の中の月」です。

六月がきたら

干し草の香りの中で恋人と一日中座つてみよう

見上げれば風さよぐ空

白雲の明るい宮殿

というロバート・ブリッジの詩もあります。

ところで、地域の見直しという言葉が国土庁の定住圏構想と歩調を合わせるように、にぎやかに現われ始めていますが、いろいろの計画を見ますと、どこもかしこも個性を失つたような特徴のない計画の多いことに気づきます。

新幹線ができ、高速道路ができ……といったように地方の町の人びとが便利になってくるたびに、町の形状が東京の景観に変つていつて、従来のその町のもつていた風格が失われてきました。常に旅人だけの郷愁であれば幸いです、生まれたときから住んでいる市民自身も、歴史と伝統の香りのただよつていたわが町という感覚にずれができてきているのではないのでしょうか。

日本人は今まで、自然をとり入れ、味わい、楽しむ空間を創りあげることに努めてきたものです。ところが、現代は自然は自力で元に戻つてくれると都合のよい解釈をしてしまつています。私は「まち創りは人創り」であると考えています。肥田町の郷づくり委員会の目ざされるところはここにありと思っています。皆さん方の郷のご発展をご期待申し上げます。

広報の発行にあたり

自治会長 伊関 猪蔵

私、本年度の自治会長を仰せつかり、もとより浅学非才な私ではありますが皆様方のご理解と温かいお力添えによりまして、私なりに力いっぱい努めさせて頂きますので宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年度は大変貴重な町史の発刊を見、肥田町の歴史を知り私自身、改めて肥田町に住んでいる喜びと誇りを感じました。

この歴史と伝統を守りながら今後二十一世紀に向け、住んでいて良かったという「明日の肥田」をめざした郷づくり委員会が設置されました。

町民一丸となつて、次の世代がしっかりとバトンを受け取ってくれる街をつくるのが今の私達の責務であると思います。

広報の発行を機に皆様に訴え、皆様と共に真剣に考え取り組んでいきたいものであります。

ロマン遊歩道を花一杯に！

郷づくり事業の一環として、宇曾川遊歩道を花で彩り、人びとの目にやさしく、楽しんでもらおうと市、平成七年度生活環境緑化事業で苗木を受け、堤の所々に、アジサイ・ツツジ・サツキなど植樹された。その他、豊稷の碑、万葉の歌碑周辺には、花水木・雪柳・ザクロ・梅・さるすべり等、寄贈の木々が元気に育っています。今後も一層の緑化につとめていきたいと考えています。皆様のご支援をお願いします。



元気に新学期

ピッカピカの一年生

今年の一年生は三人でした。
春の祭りには、稲枝東小のかわいいユニホーム姿で先ばいたちと「みこし」かつぎに参加しました。



らんらん
かくさく
右一代守
て圭衣
つ守宮持
か守成元
向矢

学年	男	女	計
1	2	1	3
2	3	2	5
3	2	0	2
4	4	1	5
5	4	2	6
6	2	3	5
計	17	9	26

平成8年4月
肥田町学年別児童数

二十六人の小学生、十三人の中学生ががんばってください。

福寿会だより

五月二十三日、本年度市老く連スポーツ大会が、庄堺グラウンドで約一千名の選手が参加、盛大に行われた。肥田町福寿会も十名の選手が出場し、優秀な成果を挙げられました。選手・役員のみなさんご苦労さまでした。

子ども文庫

子どもに夢多い本との出会いを！

自治会文教部活動の中で、子ども文庫を始めてから、この八月で三年目を迎えます。子ども会、カンガルークラブのみなさんのご協力で、肥田町内の幼児・小学生・その他町外在住の子どもたち大勢が本に親しみ、利用度を高めてきました。たのしい本と仲良しになり、この機会に、多くの子どもたちが、集いふれあいの場をもちたいと行事も考えています。

町民のみなさんぜひ一度おいで下さい。又、ご案内いたします。

祭りは太鼓でにぎわう！

小宮祭の宵には、久しぶりで力強い太鼓の音が町中に響き渡った。伝承事業部長の元持正三さんの指導で、若衆連、先輩が入り交じって伝統の太鼓のたたき方をなかなか雰囲気の中で身につけました。

これからも、この歴史ある、伝統芸能を後世の人々に伝えていきたいものです。



緑 風

年々歳々花相似たり
歳々年々人同じからず
古い中国の詩があります。毎年毎年花は時季になると、何事もなかったかのように咲きます。

今年も宇曾川の堤防の桜も、菜の花も見事に咲きました。今はサツキやつつじが満開です。青葉若葉の新緑の好季節の五月を迎えています。それに引き替え、人間は、毎年同じではない。新しく生れる人、入学する人、就職する人、結婚する人、病気に臥せる人、死を迎える人、限りある人間の一生は毎年必ずしも同じではありません。私も古希をすぎ、平均寿命まであと数年となりました。せめて後十年と思っていますがこれとて神のみの知る世界であります。

大自然の恵みの中で、自然と共に生きていく私共は、大きくは地球を守り、身近では地域における環境を大切にして、今を生きる人に楽しさを、子孫にきれいな環境を伝えることの大切さを、変らぬ大自然の中で考えたいと思います。

人間の社会には数百年、数十年に一回、大きな社会の変化が起こります。明治時代までの農業を中心とした農業社会。機械の発達による工業化が進み、メーカー主導の工業社会がついに最近まで続いておりましたが、ベルリンの壁に代表される東西の冷戦の集結により、経済は国境を越えて世界は一つになりました。いま消費者中心の消費者主導の経済へと大きな変化が始まっております。戦後五十年日本は敗戦による苦難の中から、日本人の勤勉日本人の教育水準の高さにより、世界一の経済大国に成長して参りましたが、現在の日本は、世界一賃金の高い国となり、

物価も世界一高い国になりました。物を買うのは消費者一人一人です。世界のどこで造られた物でも品質が良く、価格が安ければ世界のどこの国の物でも買うのは当りまえの時代を迎えつつあります。私の仕事である衣の業界は勿論ですが、食の業界、住の業界も今後は国際分業が進み世界の中で夫々が得意とする分野の棲み分けの時代になることは間違いないありません。

(株)ユニックス社長

山岸長兵衛

自治会だより

稲枝地区ソフトボール大会

輝くAゾーン優勝

去る五月二十六日、稲枝地区ソフトボール大会が開催され、肥田チームは強豪揃いのAゾーンで熱戦を展開し、優勝戦対南三ツ谷と対決、優勝戦にあさわしい戦いを展じ、優勝の栄冠を得ました。

選手の皆さん大変ご苦労さまでした。
応援の皆さんありがとうございました。

体育 部

あとがき

みなさんのご協力により、広報ひだの第一号を発行することができました。「郷づくりは人づくりから、人づくりは郷づくりから」といいます。いにしえから豊かな自然に恵まれたわがまち肥田を愛し、より発展させるべく、この広報情報誌が豊かな郷土の発展のため、人々の心を結ぶかけ橋になるよう、これからもみなさんのご協力をお願いします。